

令和 7 年度第 3 回東京都地方独立行政法人評価委員会
高齢者医療・研究分科会議事録

●日時 令和 7 年 7 月 28 日（月曜日）午後 3 時 00 分から午後 3 時 25 分まで

●場所 東京都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 26

（一部委員はオンライン参加）

●出席者 大内分科会長、岡田委員、高梨委員、土谷委員、松前委員

●審議事項

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの令和 6 年度業務実績評価（案）
の決定について

○施設調整担当課長 ただいまより令和 7 年度第 3 回東京都地方独立行政法人評価委員会高齢者医療・研究分科会を開催いたします。

本日はお忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。本日は、本会場のほか、一部の委員におかれましては、オンラインで御出席をいただいております。

議事に入るまでの間、私、東京都福祉局高齢者施策推進部施設調整担当課長の小澤が進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、本日の出席状況です。5 名の委員に御出席いただいております、東京都地方独立行政法人評価委員会条例第 7 条第 3 項及び第 5 項により定足数を満たしているため、本会は有効に成立いたしますことを御報告いたします。

次に、会議資料の確認をさせていただきます。会場にて御参加の皆様には、資料をダウンロードしたタブレットをお手元に御用意しておりますので、そちらを御確認ください。オンライン参加の委員におかれましては、事前にメールで資料を送付しておりますので、御確認ください。なお、資料につきましては、オンラインの画面上でも共有をさせていただきます。

資料は 1 から 4 までございます。御確認願います。

なお、本日の分科会については、東京都地方独立行政法人評価委員会運営要綱第 2 条に基づき、原則公開としており、同要綱第 4 条に基づき、議事録及び会議資料につきましては、後日、福祉局のホームページに掲載いたします。

最後に御発言の際の留意点になります。会場の委員の皆様におかれましては、座席設置のマイクに向かって御発言をお願いいたします。オンライン参加の委員におかれましては、カメラに向かって挙手をしていただき、ミュート解除後に御発言をお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行につきましては、大内分科会長にお願いしたいと思います。大内分科会長、よろしくお願いいたします。

○大内分科会長 本日は皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございました。分科会の会長を仰せつかっております虎の門病院の大内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事次第に沿って進めてまいりたいと思います。

まず、本日のメインの議事であります、令和6年度業務実績評価（案）につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

○施設調整担当課長 それでは、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの令和6年度業務実績評価（案）について、御説明をいたします。

まず、資料1「令和6年度業務実績評価（案）に対する委員意見及び回答」を御覧ください。

第2回分科会において頂戴した分科会委員の御意見とそれに対する対応（案）でございます。項目の順番に沿って御説明します。

まず、項目4「高齢者糖尿病医療」についてです。委員からは、資料2列目の記載の御意見をいただきました。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、糖尿病看護外来年間延べ患者数は目標を上回っており、糖尿病の専門医療、合併症・フレイル予防の推進等は評価できるものの、概ね年度計画通りの実施であることから、B評価が適切と考えてございます。

続いて、項目6「救急医療」についてです。委員からは、資料2列目の記載の御意見をいただきました。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、外科系診療科等によるオンコール待機の実施による時間外の手術適応等、体制の強化に取り組んだことは評価できるものの、救急患者の受入数や救急患者の断り率は引き続き改善が求められることから、B評価が適切と考えてございます。また、全体評価における「改善・充実を求める事項」として、救急患者断り率の改善を求める旨を記載したいと考えております。

続いて、項目7「地域連携の推進」についてです。委員からは、資料2列目の記載の御意見をいただきました。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、法人の自己評価としてはB評価としているものの、東京都としては、主に認知症抗体医薬の継続投与についての地域連携の強化を行ったことなどを評価いたしまして、A評価が適切と考えてございます。

続いて、項目14「研究成果の社会への還元」についてです。委員からは、資料2列目の記載の御意見をいただきました。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、全体評価における「改善・充実を求める事項」として、外部研究機関や企業等の共同研究開発などをさらに進

め、研究成果の一層の還元が求められる旨を記載したいと考えてございます。また、評価案にも同じ趣旨を記載したいと考えてございます。

続いて２ページ目、項目16「認知症との共生・予防の取組」についてです。委員からは、資料２列目に記載のとおり、法人自己評価がＡ評価のところ東京都としてＳ評価にすることに異論はないと御意見をいただいております。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、認知症支援推進センターにおける島しょ支援や認知症抗体医薬に係る体制の整備の取組、認知症未来社会創造センター（ＩＲＩＤＥ）における研究を通じて、東京都の認知症施策に貢献したことを評価し、Ｓ評価が適切と考えてございます。

最後に項目20「収入の確保・コスト管理の体制の強化」についてです。委員からは、資料２列目の記載の御意見をいただきました。

御意見を踏まえ、事務局の対応案といたしましては、全体評価における「改善・充実を求める事項」として、医療経営を取り巻く環境が厳しい中でも、収入確保に向けた一層の努力等により、更なる収支改善が求められる旨を記載したいと考えてございます。また、評価案にも同じ趣旨を記載したいと考えてございます。

続いて、資料２「令和６年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター業務実績評価（案）概要」を御覧ください。

資料２の１ページ目では、業務実績評価の流れについて記載しております。業務実績評価は、法に基づいて知事が評価委員会の意見を聴いたうえで実施し、評価結果を都議会に報告することになってございます。具体的には、資料一番下に記載のある業務実績評価の流れのとおり、健康長寿医療センターから提出された業務実績報告書に基づいて、知事が業務実績評価（案）を作成し、評価委員会からの意見聴取を経て、知事が業務実績評価を決定し、都議会に報告する流れになってございます。

次のページを御覧ください。

令和６年度の業務実績評価（案）の全体評価といたしましては、第四期中期目標期間の２か年度目となる令和６年度は、全体として年度計画を順調に実施し、着実な業務の進捗状況にあると評価としております。資料右側、全体評価評語の上から三つ目、着実な業務の進捗状況にあるに該当します。

その下の枠、高く評価すべき事項として、病院部門及び研究部門から二つずつ項目を挙げてございます。

病院部門の一つ目は、四つの重点医療についての記載でございます。二つ目は、特に評価すべき取組として、多くの急性期脳卒中患者の受入れなどを行った血管病医療と認知症医療について記載してございます。

研究部門の一つ目は、自然科学系の研究としてＰＥＴ用薬剤等の開発、多剤処方による将来の身体的リスクへの影響等を記載してございます。二つ目は、医療・研

究の一体的取組により培ったセンターの知見やノウハウを生かした認知症の研究等を通じて、東京都の認知症施策に貢献したことを記載してございます。

「改善・充実を求める事項」としては、三つ記載してございます。

一つ目は、救急患者断り率の改善に向けた取組の一層の強化でございます。二つ目は、外部研究機関や企業等の共同研究開発などをさらに進め、研究成果を一層還元することによってございます。三つ目は、医療経営を取り巻く環境が厳しい中でも、収入確保に向けた一層の努力等による更なる収支改善を記載してございます。

3枚目を御覧ください。

項目別評価についてです。御覧のとおり法人評価に対し東京都評価が変わった項目は、3点ございます。一つ目は、1（1）イ（ア）の「救急医療」が、法人評価Aのところ東京都評価案ではB評価に。二つ目は、1（1）イ（イ）の「地域連携の推進」が、法人評価Bのところ東京都評価案ではA評価に。三つ目は、1（3）イの「認知症との共生・予防の取組」が、法人評価Aのところ東京都評価案ではS評価としてございます。この結果、項目別評価の合計として、S評価が3、A評価が6、B評価が12となっております。

次のページ、4ページ目を御覧ください。ここから3ページにわたって病院部門、研究部門、経営部門の主な業務実績と評価案をまとめて記載してございます。

まず、病院部門でございます。四つの重点医療として、「血管病医療」、「高齢者がん医療」、「認知症医療」、「高齢者糖尿病医療」を記載してございます。

項目1「血管病医療」については、脳卒中ケアユニット（SCU）の増床、脳卒中回復期リハビリはっとラインの構築、心不全看護外来の新設などを挙げて、評価案をSとしてございます。

項目2「高齢者がん医療」については、手術支援ロボットの導入、がん相談支援センターにおける相談対応、緩和ケアの提供などを挙げて、評価案をAとしてございます。

項目3「認知症医療」については、レカネマブやドナネマブの投与の体制整備、地域の人材育成、地域連携の推進等を挙げて、評価案をSとしてございます。

項目4「高齢者糖尿病医療」については、地域の医療機関等に対する最新の情報の提供などを挙げて、評価案をBとしてございます。

地域医療体制の確保については、「救急医療」と「地域連携の推進」を記載してございます。

項目6「救急医療」については、救急医療体制の確保を一つ目に掲げておりますが、救急患者断り率の改善に向けた取組を一層強化することが求められるということで、評価案をBとしてございます。

項目7「地域連携の推進」については、地域医療支援病院としての取組のほか、認知症抗体医薬の継続投与についての連携の強化等があり、評価案をAとしてござ

います。

続いて、研究部門でございます。

項目11の自然科学系の研究については、PET用イメージング剤の開発を例として挙げて、評価案をAとしてございます。

項目12の社会科学系の研究については、多剤処方の将来の身体的リスク、また、独り好き思考の高い人でも社会的孤立による精神的健康への悪影響は弱まらないこと、こういった研究を挙げて、評価案をAとしてございます。

項目14「研究成果の社会への還元」については、産学連携コーディネーターの配置等を一つ目の項目に記載し、二つ目には、外部研究機関や企業等の共同研究開発などをさらに進め、研究成果の一層の還元に向けて取り組むことが求められることを記載をして、評価案をBとしてございます。

項目15「介護予防・フレイル予防の取組」については、東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターの運用、フレイル外来の地域連携枠の開設、スマートウォッチを活用したアプリの完成などを掲げ、評価案をAとしてございます。

項目16「認知症との共生・予防」については、認知症支援推進センターにおける島しょ支援や、認知症抗体医薬に係る体制整備の取組などを掲げ、評価案をSとしてございます。

最後に経営部門でございます。

項目17「高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成」については、地域の専門人材の育成や連携強化、フレイルに関わる人材の育成などを掲げ、評価案をBとしてございます。

項目18「地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化」については、会議体の統合による一体的運営や、ライフ・ワーク・バランスの推進などを掲載し、評価案をBとしてございます。

項目19「適切な法人運営を行うための体制の強化」については、コンプライアンスの取組などを挙げ、評価案をBとしてございます。

項目20「収入の確保・コスト管理体制の強化」については、医療経営を取り巻く環境が厳しい中でも、医業収入の確保、積極的な外部資金の確保など、収入の確保や費用削減に努めたことを一つ目の項目に掲げ、二つ目の項目に、こうした取組を引き続き進めるとともに、収入確保に向けた一層の努力等による更なる収支改善が求められることを記載し、評価案をBとしてございます。

7ページ目以降は、基本的に第2回の分科会でお示しした資料と同じでございますが、委員の意見を踏まえて2点修正してございます。

まず、20ページ目、項目14「研究成果の社会への還元」でございます。委員の意見を踏まえまして、東京都評価案の矢印の赤字の箇所、御意見を聴取する前は、普及・還元を推進したことを評価できるとしておりましたが、普及を推進したことは

評価できると修正した上で、さらに今後、研究成果の一層の還元に取り組んでほしいと、文言を修正してございます。

2点目の修正は、26ページ目、項目20「収入の確保・コスト管理体制の強化」でございます。

一層の収入の確保が必要であるという委員の御意見を反映いたしまして、医療経営を取り巻く環境が厳しい中でも、引き続き、医療収入の一層の確保やコスト管理体制強化に取り組んでほしいと、させていただきました。

資料2の説明は以上でございます。

資料3「令和6年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター業務実績評価(案)」は、これらの資料2をまとめて文章にしたものでございます。

1ページ目に全体評価がありまして、3ページ目が総評になっております。

総評のところ、先ほどの資料2のとおり、「高く評価すべき事項」を四つ、病院部門と研究部門で並べて、「改善・充実を求める事項」として、先ほど申し上げた3点を記載させていただいております。

5ページ以降は項目別評価案の要約を記載してございますので、後ほど御覧いただければと思います。

最後に、資料4「令和6年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの業務実績評価案に係る評価委員会の意見について(案)」を御覧ください。こちらが、高齢者医療・研究分科会として、都知事に提出する意見案でございます。

先ほどまでの資料のまとめでございます。

健康長寿医療センターの令和6年度の業務については、概ね着実な業務の進捗状況にあると認められる。評価の決定に際しては、次の点について留意されたい。

病院部門では、フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」の実現に向けて、重点医療を中心に的確に取り組んでいる。高齢者の急性期医療を担う病院として、急性期患者の積極的な受入れに取り組むとともに、公的医療機関として、地域における中核的な役割を果たしながら、地域の医療機関等との連携を更に推進することが求められる。

研究部門では、PET用イメージング剤の開発などの高齢者に特有な疾患と老年症候群の克服に向けた研究、多剤処方が将来の身体的リスクを増大させる可能性があることを明らかにするなどの高齢者の地域での生活を支える研究等、成果を上げている。引き続き、病院と研究所とを一体的に運営する法人の特長を生かした研究を推進することが求められる。

経営部門では、健康長寿医療研修センターが中心となり、高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成に取り組んでおり、今後も、これまで蓄積したノウハウなどを生かしながら、地域における専門人材の育成に積極的に取り組むことを期待する。また、更なる業務の改善・効率化や収支改善に向けて、法人一丸となった経営基盤

の強化に取り組むことが求められる、としてございます。

続いて、第四期中期目標の達成に向けては、法人が次の取組を推進することを期待する。

1点目、救急医療について、救急患者断り率の改善に向けた取組を一層強化してほしい。2点目、外部研究機関や企業等の共同研究開発などをさらに進め、研究成果の一層の還元に取り組んでほしい。3点目、医療経営を取り巻く環境が厳しい中でも、収入確保に向けた一層の努力等により、更なる収支改善に取り組んでほしいとしてございます。

以上、意見（案）でございます。事務局からの説明は以上でございます。

○大内分科会長 ありがとうございます。

ただいまの事務局から御報告ありました令和6年度業務実績評価（案）につきまして、御説明いただいた内容を含めて、御意見、御質問等ありますでしょうか。

土谷委員、御意見ございますでしょうか。

○土谷委員 事務局の提案どおりで、新たな提案はありません。

○大内分科会長 ありがとうございます。

ほかの委員の方からは、御意見ございますでしょうか。

岡田委員、いかがですか。

○岡田委員 ありがとうございます。

私も事務局におまとめいただいたもので異論ございません。臨床面、また、研究面で認知症、また、脳卒中、それぞれすばらしい取組をされていて、それが反映された評価と考えております。特に異論はございません。

○大内分科会長 ありがとうございます。

松前委員、いかがでしょうか。

○松前委員 ありがとうございます。おまとめいただいた案で、内容については特に新たな追加はございません。

これまでも申し上げていた内容でございますけれども、評価をするに当たって、もう少し客観的な数値の追加を、来年以降はやっていただきたいということを申し伝えさせていただきます。以上でございます。

○大内分科会長 ありがとうございます。

高梨委員、いかがでしょうか。

○高梨委員 御説明ありがとうございます。

私も、特に新しくということはありません。基本的なことで恐縮ですが、質問させていただきたいことがあります。若干、法人の自己評価と変わっている項目があると思うのですが、それについて、法人側の受け止めなどはいかがでしょうか。それはまだ、法人には伝わる前の段階でしょうか。

○施設調整担当課長 はい。

○高梨委員 なるほど、分かりました。ありがとうございます。

○大内分科会長 よろしいでしょうか。

○施設調整担当課長 各委員からの意見も反映して、東京都として、特に東京都の政策面で評価を上げたところ等もあります。様々、第2回でいただいた個別の意見とともに、法人に伝えていきたいと思います。

また、松前先生からお話のあった、こういった数字があると客観的に評価がしやすいという点も法人にこれから伝えまして、活かしていただきたいと考えてございます。

ありがとうございます。

○大内分科会長 ほかに言い残した先生はおられますでしょうか。よろしいでしょうか。

私も特に、これ以上の発言はございません。

一つだけ、今回の評価に掲載するという要望ではないものですが、お伝えします。アルツハイマーの抗体療法について、第1回分科会の際にも申し上げたのですが、そろそろプロトコルにある抗体医薬の投与後1年半を過ぎる患者が出てくると思います。今後どうしたらよいのかということを、抗体療法のパイオニアとして東京都健康長寿医療センターには積極的に情報発信していただきたいと思っています。

皆さん、相当困っているようですので、ぜひその辺りをお願いしたいと、法人にお伝えいただければありがたいと思います。

○施設調整担当課長 確かに伝えたいと思います。ありがとうございます。

○大内分科会長 ほかにいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、これ以上の特段の御意見がないということですので、本日の議題になりました令和6年度業務実績評価（案）を資料のとおり決定といたしたいと思えます。本日の議事は以上となります。ここで、進行を事務局にお返しいたします。

○施設調整担当課長 大内分科会長、委員の皆様、ありがとうございました。

今回御審議いただいた評価案につきましては、今後、知事に諮りまして、評価を決定いたします。その後、東京都議会第三回定例会に、評価結果について報告をする流れになっております。

また、次回の分科会は来年3月頃の開催を予定しており、法人の令和8年度計画及び令和7年度業務実績評価の指標等について御審議いただく予定としております。

また、第2回分科会、第1回分科会を通じて、多くの貴重な大変参考になる御意見をいただいております。こちらについては確実に法人に伝えまして、フィードバックをしていきたいと考えてございます。

それでは、本日の分科会は以上で閉会といたします。

お忙しい中、ありがとうございました。